

# LiLian×志段味図書館 連携企画

## POP教室 ~楽しくPOPを書いてみよう~

金城学院大学

志段味図書館

2019年8月23日(金)に名古屋市志段味図書館との連携企画

「POP教室」を開催しました。

3回目の開催となる今年は、あいにくの雨模様にもかかわらず、

10名の小学生と1名の幼稚園児の参加がありました。

めいめい自分の好きな本を選んで、図書館ボランティア LiLian

と一緒にPOP作りを楽しみました。

### 当日スケジュール

- 12:00 ランチミーティング♪
- 13:00 イベント準備
- 13:30 POP教室イベント開始
- 15:00 イベント終了



### 志段味図書館ってどこ？

〒463-0811

名古屋市守山区渋沢一丁目101番地

ゆとりーとライン 「上島(東)」 下車すぐ



## Lillianの感想

白の画用紙に白のキャラクターを書く。そんなときのような色で書けばいいのか。白は白以外でも書き方によって白に見える。色使いに対して改めて考え直せる機会でした。こちら側が学ぶことも多くとても楽しかったです。

改善点としては、机の形がとても1対2に向かない形をしており、同時進行で2人の子を見るのが難しかったです。あと色鉛筆が飛び込み参加の子の場合なく困っている印象が強かったです。また私の場合、POP作りの本を使わなかったという理由もあったのですが、誰に向けてPOPを書きたいか。は聞かない方が自由に書けていいのではないのかな？と思いました。

担当させて頂いた小学校1年生の子は、POPを書いている途中から「次、何書いて欲しい?」「今から書くやつ当ててね」など私に対して書いてくれる節もありました。 3年\* S. C.

普段関わることのない小学生とポップを作るという貴重な体験ができてよかったです。人見知りの子と打ち解けるのに苦労しましたが、段々と自分の意見を言ってくれるようになり、面白いポップが作れました。

子供たちが名札をもらって嬉しそうにしていたので、名札をプレゼントするのは良いと思いました。 2年\* I. M.

自分では、思いつかないような発想でPOPを子ども達が作ってくれたので、教える側でしたが色々学ぶことができたので良かったです。最初、子ども達と接するのは緊張しましたが、私が担当した子たちは、小学4年生だったので、自分達でどんどん進めていて、しっかりしているなと思いました。小学生くらいの子たちと接する機会は、ほとんどないので新鮮な気持ちになりました。

小学4年生の女の子がPOPに書く文章に困っていて、アドバイスをするのが難しかったです。本について、細かく聞いていくとだんだん書きたい文章が決まっていきました。本について、感じたことは色々あると思いますが、それを言葉にするのが難しいのかなと感じました。

時間が少しギリギリになってしまい、最後は少し急ぎながら作っていたので、申し訳なかったです。時間を考えながら、もっと上手にサポートできたかなと思います。また、自分の使いたい色鉛筆がないから、作業が止まってしまうということがあったので、色鉛筆をもう少し増やした方がよいと思いました。私も色鉛筆やペンなどを持参すればよかったと思います。 2年\* H. I.

POP教室に参加して様々な年齢の子供たちと触れ合うことが出来ました。私が担当したのは小学2年生の女の子と年中の弟の2人でした。先日参加した本の帯作りでは中学年を担当したので、回よりも言葉選びや接し方を優しくすることを意識しました。お姉ちゃんの方は大体の構成が頭の中にあっただのかすらすらと進めることができ、本人も満足できるものができました。弟の方は、お母さんと共に楽しそうにやってくれていてよかったです。

頭の中に完成像があったからこそ話をすることが少なかったなと思うので次回があれば沢山話をすることを意識したいです。 1年\* K. N.

小学生の子どもたちと関わって、自分にとって1つだけの作品を作っていくお手伝いができたことが価値のある体験になりました。ゆとりーとライン始めて乗ったので、ワクワクして楽しかったです。

その日に来て何をすることもわからず戸惑う姉弟を担当しました。この本だという本を探すことに始まり、なかなか手が動かないようでした。

あれこれ口を挟むことはできても、上手く書きたいことを引き出すことが出来ず、自分のコミュニケーション能力の低さに苦虫を噛み潰したような思いでした。しかし、母親の声が鶴の一声なり、紙に書き始めました。

それでも何を書か纏まっておらず、少し書いては手が止まりそうになっていたので、本について色々話をしてみたり、どんな絵を描くかを指で示したりと、話していくうちに、自分の書くものの展望が見えたのか、悩み顔のまま手の動きが滑らかになっていきました。「こうして良いか」など聞いてくれるようにもなり、素敵な作品が仕上がりました。

反省点・改善点としては、使いたいものをすぐに手に取れる位置に物があれば良いなと思いました。色鉛筆がないということで、遠慮する気持ちが強くなってなかなか手がつかないという状況を、濃くしてしまった気がしました。筆記具は1人1つ手元にある状況で開始したいと思いました。 3年\* H. S.